

# 各施設貸館機能の稼働状況について

## 1 各施設貸館機能の基本情報

対象施設のうち、貸館機能を有している中央文化センター、保健センター、ふれあい会館の諸室について、基本情報を整理しました。

### (1) 定員数・面積・開館日数

#### ■ 中央文化センター（資料4-2 P1 表1.1）

- ・中央文化センターは公民館機能として講堂や会議室、福祉会館機能として和室や料理講習室、児童館機能としてひばりホールなど専用用途の貸館機能を有しています。
- ・年間開館日数は340日程度を推移していますが、コロナ禍の影響により、令和2年度は276日（一部155日、129日）に減少しました。令和3年度には332日（一部257日）と回復傾向にあります。

#### ■ 保健センター（資料4-2 P2 表1.2）

- ・保健センターで貸館機能を有する諸室は健康増進室のみです。年間開館日数は265～317日でしたが、コロナ禍の影響を受けて令和2年度以降は170日程度に減少しています。

#### ■ ふれあい会館（資料4-2 P2 表1.3）

- ・ふれあい会館で貸館機能を有する諸室は会議室のみです。年間開館日数は290日程度とコロナ前後で大きな変化はありませんでした。

### (2) 利用件数と利用者数（年度別）

#### ■ 中央文化センター（資料4-2 P3 表1.4）

- ・コロナ禍の影響により、令和2年度に利用者数、利用件数ともに大幅に減少しましたが、令和3年度は回復傾向にあります。
- ・利用者数については、定員数の多い第1講堂やひばりホールが多い傾向にあります。
- ・利用件数については、講堂や会議室が多い傾向にある一方で、料理講習室、遊戯室、工作室などの専用用途の諸室は少ない傾向にあります。

#### ■ 保健センター（資料4-2 P4 表1.5）

- ・利用者数は平成30年度の10,494人をピークに減少傾向にあります。
- ・利用件数は平成30年度、令和元年度の938件をピークに、コロナ禍の影響により令和2年度以降は減少傾向にあります。

#### ■ ふれあい会館（資料4-2 P4 表1.6）

- ・コロナ禍の影響により、令和2年度に利用者数、利用件数ともに大幅に減少しましたが、令和3年度は回復傾向にあります。

### (3) 利用件数と利用者数（コマ別）

#### ■ 中央文化センター（資料 4-2 P5～6 表 1.7）

- ・利用者数は、全体的に「午前」「午後」が多い傾向にありますが、第 1 談話室については「夜間」が多い傾向にあります。
- ・利用件数も同様に「午前」「午後」が多い傾向にあります。
- ・利用者数と利用件数のピークが一致していない諸室が見受けられることから、予約 1 件あたりの利用者数に差があることが推測されます。

#### ■ 保健センター（資料 4-2 P7 表 1.8）

- ・利用者数、利用件数ともに「午前」「午後」が中心であり、特に「午後」の利用が多い傾向にあります。
- ・「夜間」の利用は全体的に少ない傾向にあります。

#### ■ ふれあい会館（資料 4-2 P7 表 1.9）

- ・利用者数、利用件数ともに、令和元年度までは「午後」が多い傾向にありますが、令和 2 年度以降は「午前」と「午後」に分散しています。
- ・利用者数、利用件数ともに、令和 2 年度にやや減少していますが、令和 3 年度は回復傾向にあります。
- ・「夜間」の利用が少ない傾向にあり、令和 3 年度はすべての室のコマ別の利用者数、利用件数が最小値となっています。

## 2 分析する稼働状況の指標

対象施設の更新の方向性を判断する基礎データとして、貸館機能を有する施設の稼働状況を分析しました。稼働状況の分析で用いる指標は以下のとおりです。

指標	計算方法	内容	目的
予約1件当たりの コマ別利用者数	コマ別利用者数 ／ コマ別利用件数	予約1件当たり、何人で利用しているかを示す指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各室の予約1件当たりの平均利用人数を把握する。</li> <li>・複合化等を検討する際、ボリューム検討（室数、面積）の基礎データとする。</li> </ul>
定員充足率	予約1件当たりの コマ別利用者数 ／ 定員数	定員数に対し、どのくらいの利用者数が利用しているかを示す指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・稼働率が高くて利用者数が少ない場合、効率的な運用とは言えないため、その状況を把握する。</li> <li>・1コマ当たりの利用者数の傾向を把握し、適正な諸室規模を把握する。</li> </ul>
稼働率	コマ別利用件数 ／ 年間利用可能 コマ数	年間の利用可能コマ数に対し、どのくらい利用されているかを示す指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・稼働率の高い時間帯を把握する。</li> <li>・複合化等を検討する際、ボリューム検討（室数、面積）の基礎データとする。</li> </ul>



直近5年間の推移を分析し、稼働状況を整理

### 3 直近5年間の稼働状況の指標分析

平成29年度～令和3年度の5年間の推移を分析し、各諸室の稼働状況を分析しました。

#### (1) 予約1件当たりのコマ別利用者数

- ・資料4-2の表1.4～1.9における傾向として、コマ別利用者数とコマ別利用件数のピークが一致しないことから、予約1件当たりのコマ別利用者数に差異がある状況が確認されました。
- ・そこで、諸室ごとの予約1件当たりの利用者数をコマ別の5年間平均について整理しました。

#### ■ 中央文化センター（資料4-2 P8 表3.1）

- ・コマ別5年間平均をみると、全体的に「午後」「夜間」が多い傾向にあり、「深夜」は少ない傾向にあります。
- ・コマ別5年間平均（AVE）をみると、ひばりホールが最も多く、次いで第1講堂となっています。最も少ない室は第1談話室、第2談話室（3人）となっており、次いで第3談話室（4人）となっています。
- ・ひばりホールは40～80人程度の利用が中心ですが、1件当たりの利用者数は減少傾向にあります。

#### ■ 保健センター（資料4-2 P9 表3.2）

- ・コマ別5年間平均をみると、「午前」が最も多く、「夜間」が最も少ない傾向にあります。
- ・コマ別5年間平均（AVE）をみると、1件当たりの利用者数は8人となっています。

#### ■ ふれあい会館（資料4-2 P9 表3.3）

- ・コマ別4年間平均をみると、最大値と最小値の差異はほとんどありません。
- ・コマ別4年間平均（AVE）をみると、1件当たりの利用者数は6～11人となっています。

#### (2) 定員充足率

#### ■ 中央文化センター（資料4-2 P10 表3.4）

- ・5年間平均定員充足率（AVE）をみると、13%～54%に分布しており、全体的に定員数に対して少人数で使用している傾向にあります。
- ・定員数の多い講堂について、最大でも36%程度となっており、利用者数に対してやや過大な規模となっています。
- ・特に大広間や第1談話室、工作室の5年間平均定員充足率（AVE）は20%以下となっており、規模に見合った効率的な使い方とは言えない状況にあります。

### ■ 保健センター

- ・保健センターの健康増進室については運動等の用途で利用する室であり、定員を設定していないことから、定員充足率の分析は対象外としました。

### ■ ふれあい会館（資料 4-2 P12 表 3.5）

- ・4年間平均定員充足率（AVE）をみると、40～60%程度であり、定員数の半分程度の人数で利用している傾向にあります。
- ・全ての会議室で「午前」「午後」「夜間」で大きな差異はなく、利用者数は一定の傾向が伺えます。

## (3) 稼働率

### ■ 中央文化センター（資料 4-2 P13 表 3.6）

- ・各年度をみると、全体的に「午前」「午後」の稼働率が高い傾向にあります。
- ・ひばりホールの稼働率は、「深夜」を除き、20～50%程度となっています。
- ・大広間と第1～3談話室は「午前」「午後」で90%程度の稼働率となっています。

### ■ // （資料 4-2 P14 表 3.7）

- ・コマ別5年間平均稼働率をみると、「午前」「午後」の稼働率が高い傾向にあります。
- ・会議室や講堂などの一般諸室のコマ別5年間平均稼働率（AVE）は50～70%程度ですが、料理講習室、遊戯室、工作室などの専用諸室は比較的低い傾向にあります。

### ■ 保健センター（資料 4-2 P16 表 3.8、表 3.9）

- ・コマ別の5年間平均稼働率（AVE）は69.5%となっています。
- ・予約制ではないことから実際の利用はコマ内でもばらつきはあります。

### ■ ふれあい会館（資料 4-2 P17 表 3.10）

- ・コマ別の推移をみると、「午後」の稼働率が高い傾向にあります。
- ・コマ別4年間平均稼働率をみると、各会議室の最大値が50～60%程度となっています。
- ・コマ別4年間平均稼働率（AVE）をみると、40～50%程度となっています。

## ■まとめ

施設	中央文化センター	保健センター	ふれあい会館
予約1件当たりの コマ別利用者数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コマ別5年間平均（利用者数/件）をみると、「午後」及び「夜間」が多い</li> <li>・定員数が多いひばりホールは平均56人/件で、最も多い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コマ別5年間平均（利用者数/件）をみると、「午前」が最も多く、「夜間」は平均2人/件となり最も少ない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コマ別4年間平均（利用者数/件）をみると、最大値と最小値の差異はほとんどない</li> </ul>
定員充足率	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5年間平均定員充足率(AVE)をみると、13%～54%に分布しており、定員数に対し少人数での使用が多い</li> <li>・定員数の多い講堂は、最大でも36%程度</li> <li>・大広間や第1談話室、遊戯室、工作室は約20～30%程度</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>※定員設定がないため算定無し</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4年間平均定員充足率(AVE)をみると、40～60%程度であり、定員数に対し半分程度の人数で利用している傾向</li> </ul>
稼働率	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コマ別5年間平均稼働率(AVE)をみると、料理講習室、遊戯室、工作室などの専用諸室は30%以下</li> <li>・講堂や会議室、談話室は「午前」、「午後」で高稼働</li> <li>・ひばりホールの稼働率は、「深夜」を除き、20～50%程度</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コマ別5年間平均稼働率(AVE)は69.5%となっている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コマ別の推移をみると、「午後」の稼働率が高い傾向</li> <li>・全室のコマ別4年間平均稼働率(AVE)は40～50%程度</li> </ul>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講堂や会議室、談話室は「午前」、「午後」で高稼働な状況にあるが、定員充足率は最大でも50%程度となっているため、会議室は部屋の間仕切りを着脱可能にする等により、稼働率の更なる向上が見込める</li> <li>・定員数の多いホールは稼働率が20～50%程度となっているので、ホール機能だけでなく多目的に利用できるように整備することで、稼働率の向上が見込める</li> <li>・料理講習室や工作室等の専用諸室について、多目的に利用できる室で機能代替が可能かも含めて検討の余地がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5年間平均稼働率は69.5%、午後は90%を超えているため、継続的なニーズが確認できる</li> <li>・コマ別の5年間平均（利用者数/件）をみると、「午前」が最も多い。「夜間」は、平均2人/件となり、閉室している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全室のコマ別4年間平均稼働率(AVE)は40～50%程度で、一定の会議室ニーズは確認され、4年間平均定員充足率(AVE)も40～60%程度となっており、中央文化センター同様に会議室の数や規模、機能の見直しによる稼働率の更なる向上が見込める</li> </ul>